
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2009年第43週
(10月19日～10月25日)

- * 2009年10月28日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「おたふくかぜの合併症」も掲載しています。

平成21(2009)年10月29日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2009年43週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		40週	41週	42週	43週	年累計	43週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	66	73	40	55	3319	291	21302
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					2	3	14
	細菌性赤痢	1	1	2		38	6	148
	腸管出血性大腸菌感染症	5	6	4	9	280	72	3283
	腸チフス					10	1	23
	パラチフス	1	1	1		11		20
四類	E型肝炎					6		40
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1		1		18		99
	エキノコックス症					1		17
	黄熱							
	オウム病					1	1	19
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病			1		3	5	120
	デング熱	1	2	1		26	1	69
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						6	87
	日本脳炎						1	2
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症		1			1		2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
マラリア	1	2	1	1	25	1	53	
野兔病								
ライム病					1		6	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症					43	11	551	
レプトスピラ症							12	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		40週	41週	42週	43週	年累計	43週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	3	2	2	116	2	641
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)		1		1	30	3	178
	急性脳炎 ※2	2	4	1	7	33	12	260
	クリプトスポリジウム症			1		2		13
	クワイツフェルト・ヤコブ病					12	3	108
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					9		87
	後天性免疫不全症候群	5	8	7	8	394	8	1168
	ジアルジア症				1	20	1	63
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		9
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	3	2	4	2	163	4	566
	破傷風	1				6	1	99
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1				11	2	80
風しん	1	1	1	1	18	1	139	
麻しん	4	2	1	1	102	4	680	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3	—	—	—	—	1187	—	5038
2009/10/28計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。2009年4月28日から7月23日の期間は全数届出。2009年7月24日から8月24日の期間は集団発生事例に関連した届出。

※3 全国集計は7月24日6:00現在の国内発生累計値(検査対象者を含まない。)

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 55件 肺結核31件、その他の結核11件、無症状病原体保有者9件、疑似症患者4件で、推定感染地は全て国内、年齢は10歳未満2件(うち5歳未満1件)、10歳代2件、20歳代8件、30歳代6件、40歳代3件、50歳代7件、60歳代11件、70歳代10件、80歳代6件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 9件 患者6件、無症状病原体保有者3件。血清型・毒素型はO157(VT1VT2)4件、O157(VT2)1件、O157(毒素型不明)3件、血清型不明(VT1VT2)1件で、年齢は5歳未満2件、10歳代1件、20歳代1件、30歳代4件、40歳代1件であった。

〈四類感染症〉

マラリア 1件 三日熱マラリアで、推定感染地はフランス領ギアナであった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 2件 どちらも腸管アメーバ症で、推定感染地は国内、感染経路は性的接触(異性間)1件、その他(不明)1件であった。

ウイルス性肝炎 1件 病型はその他(サイトメガロウイルス)で、推定感染地は国内、感染経路はその他(不明)であった。

急性脳炎 7件 病原体は新型インフルエンザウイルス6件、不明1件で、10歳未満7件(うち5歳未満1件)であった。

後天性免疫不全症候群 8件 無症候キャリア6件、AIDS1件、その他1件で、無症候キャリアおよびその他の年齢は20歳代3件、30歳代3件、40歳代1件、AIDS患者の年齢は40歳代である。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間7件、異性間1件)であった。

ジアルジア症 1件 推定感染地はインドで、推定感染経路は飲食物による経口感染及び水系感染であった。

梅毒 2件 どちらも無症候で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間1件、異性間1件)であった。

風しん 1件 検査診断例で、年齢は30歳代、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 1件 麻しん(臨床診断例)で、年齢は20歳代、麻しん含有ワクチン接種歴は無しであった。

定点把握対象疾患 報告数 2009年43週

定点種別	対象疾患	2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		40週	41週	42週	43週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	13	14	12	12	0.08	148	150
	咽頭結膜熱	4	6	5	11	0.07		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	105	98	114	0.77		
	感染性胃腸炎	327	312	315	324	2.19		
	水痘	60	50	47	72	0.49		
	手足口病	65	106	119	75	0.51		
	伝染性紅斑	11	16	21	16	0.11		
	突発性発しん	104	83	78	93	0.63		
	百日咳	7	4	0	2	0.01		
	ヘルパンギーナ	39	46	32	29	0.20		
	流行性耳下腺炎	107	85	81	117	0.79		
	不明発しん症 (注1)	8	4	5	16	0.11		
MCLS(川崎病) (注1)	1	2	1	2	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	2,794	5,391	6,459	7,269	25.24	288	290
眼科	急性出血性結膜炎	2	1	1	2	0.05	39	39
	流行性角結膜炎	15	16	12	17	0.44		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	2	0	0	1	0.04	23	24
	無菌性髄膜炎	0	1	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	7	2	9	5	0.22		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	2	0.09		

2009/10/28集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

・インフルエンザの定点当たり報告数は4週連続して増加し、警報の基準となる30人/定点を超えた保健所の管内人口の合計が、東京都全体の30%を超えた。感染症法施行(1999年)以来、最も早い警報発令であり、注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

* インフルエンザに関するコメントは13～14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年43週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	1	1		7	2	1		1		
～11か月	3	1	1	20	4	2	2	32		1
1歳	7	3	3	36	11	23	2	52		7
2歳	1	2	3	29	12	17		8		6
3歳		2	9	27	8	13	3			8
4歳		1	10	34	14	9	1		1	4
5歳			25	23	8	6	2			3
6歳			17	15	2	2	3			
7歳		1	14	18	3	2	3			
8歳			4	12	1					
9歳			6	10	1					
10～14歳			12	37	5					
15～19歳			1	12						
20～29歳			9	44	1				1	
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	12	11	114	324	72	75	16	93	2	29
先週比		6	16	9	25	-44	-5	15	2	-3

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		1	1	7		
～11か月		4		23		
1歳	8	6	1	70		
2歳	15	2		134		
3歳	32			189		
4歳	16	1		299		
5歳	18	1		369		
6歳	10			453		
7歳	4			507		
8歳	6			547		
9歳	3			594		
10～14歳	3			2523	1	1
15～19歳				651		2
20～29歳	2	1		316		6
30～39歳				297	1	4
40～49歳				212		
50～59歳				57		1
60～69歳				13		2
70～79歳				6		1
80歳以上				2		
合計	117	16	2	7269	2	17
先週比	36	11	1	810	1	5

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年43週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		1
30～39歳	1	
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	1

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年43週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田					2					
中央区				2				4		
みなと	7	5	1	23		3		7		
新宿区	1		2	8	2	2		2		
文京				2		2		2		
台東			4	12		1		2		7
墨田区		1	2	4		6		2		
江東区			4	16	3		1	6		
品川区	1		1	12		3		4		
目黒区				3		4	1	1		
大田区	2	2	2	48	5	4		6		2
世田谷			8	9	2	9		1		
渋谷区		1	2	2	2	1	1	5		
中野区			1	18	4	1				1
杉並			2	26			1	3		
池袋			1	6	1					
北区				3	1	2		5		1
荒川区			2	6	4	2		2		
板橋区				7	5			1		
練馬区				3	1	2	1	5		3
足立				10	3	3		4		
葛飾区			1	2	3	7	7	4	1	
江戸川			8	16	3	4	1	3		6
八王子市			34	18	9	4		7	1	2
西多摩		1	1	11	1	3		2		
南多摩			4	5	1			2		1
町田			21	21	12		3	5		6
多摩立川				13	1	1				
多摩府中			1	2	2	1		5		
多摩小平	1	1	11	16	5	8		3		
島しょ			1			2				
東京都合計	12	11	114	324	72	75	16	93	2	29

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2009年43週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				24		
中央区				41		
みなと	6		1	161		
新宿区	2	3		157		2
文京				119		
台東				106		
墨田区	2	1		81		
江東区	3	1		243		1
品川区				181		
目黒区				38		
大田区		2		349		
世田谷	1			482		1
渋谷区		1		78		1
中野区	2			151		
杉並	1			286		1
池袋				168		
北区	2			179		1
荒川区		3		89		1
板橋区	1	1		136		
練馬区	3			304		2
足立	1			339	1	
葛飾区	14			291	1	
江戸川	2			362		
八王子市	8	2		485		3
西多摩	17		1	196		
南多摩	4			327		
町田	22	2		543		
多摩立川	3			305		
多摩府中	10			505		4
多摩小平	13			540		
島しょ				3		

東京都合計	117	16	2	7,269	2	17
-------	-----	----	---	-------	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと	1	1
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	1	1
-------	---	---

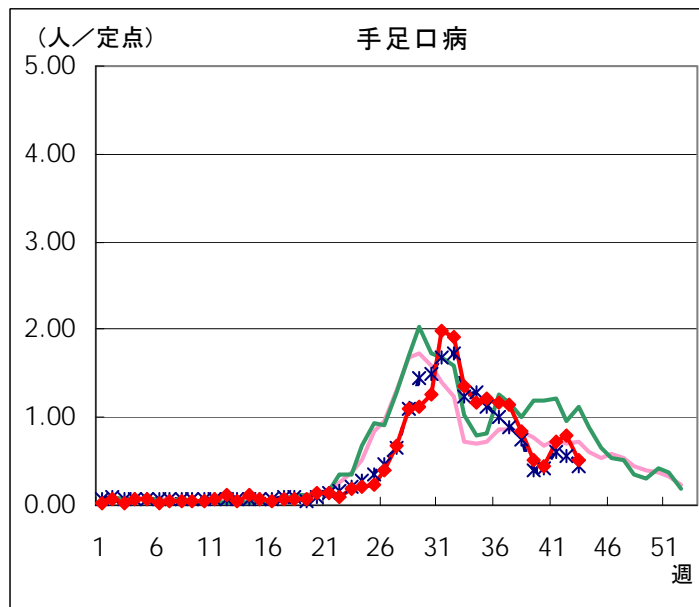
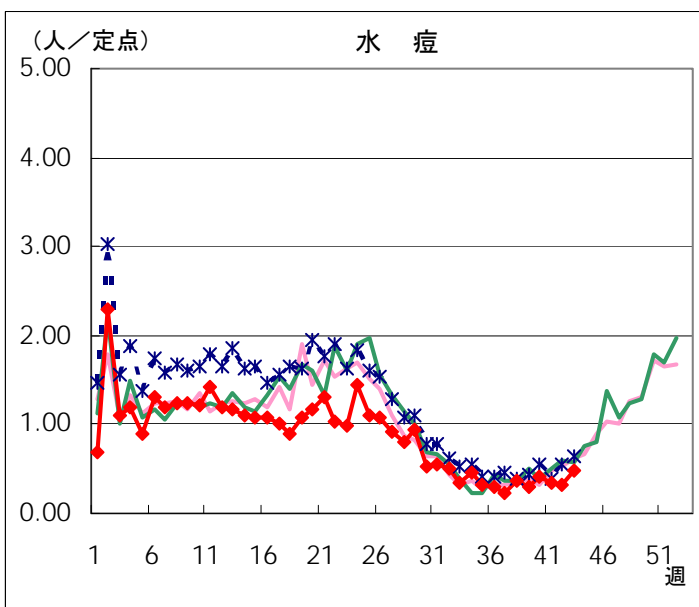
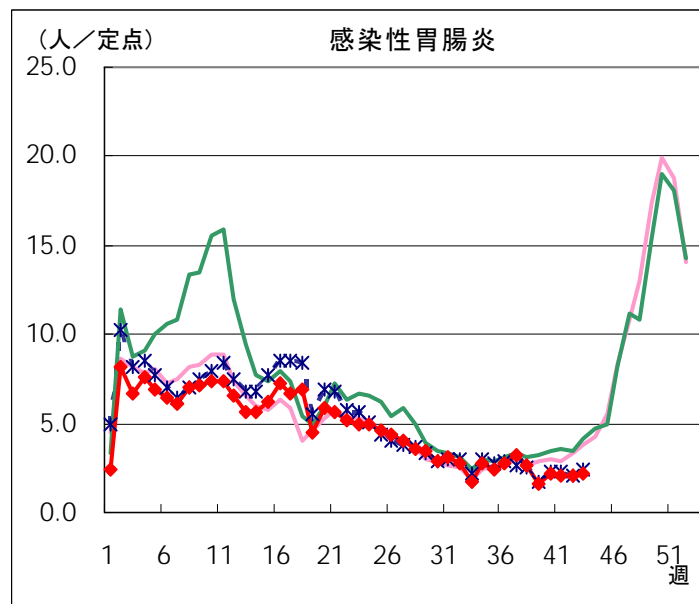
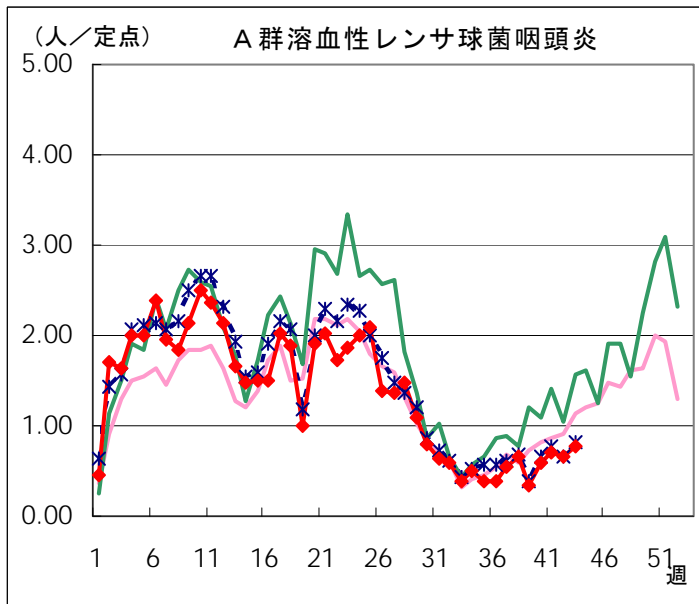
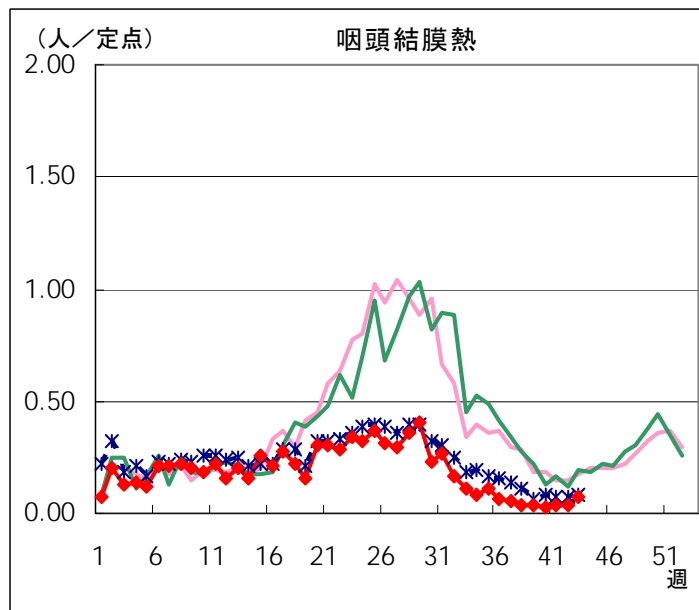
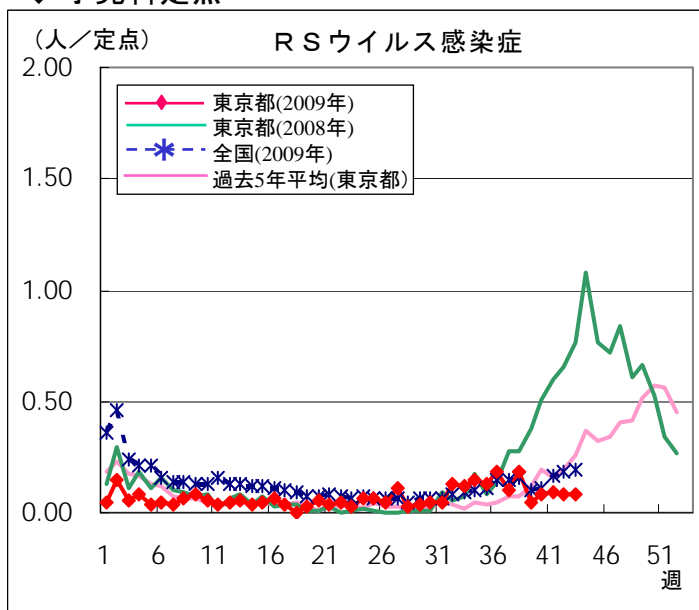
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年43週

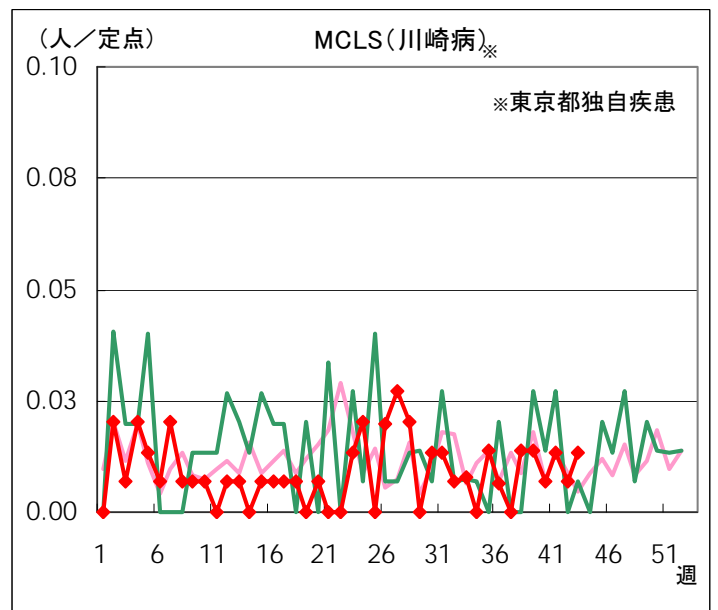
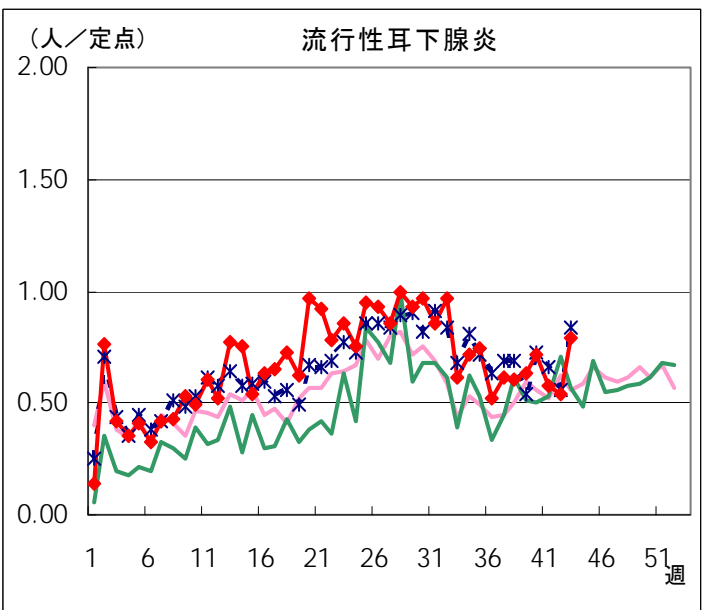
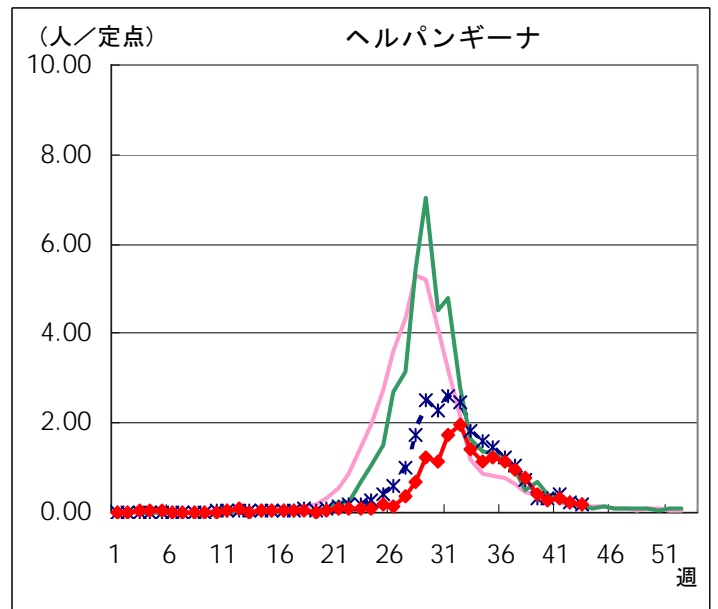
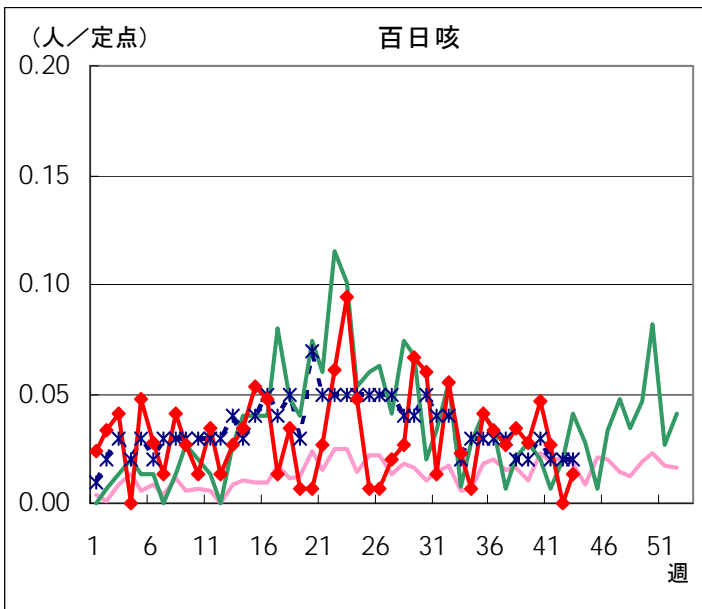
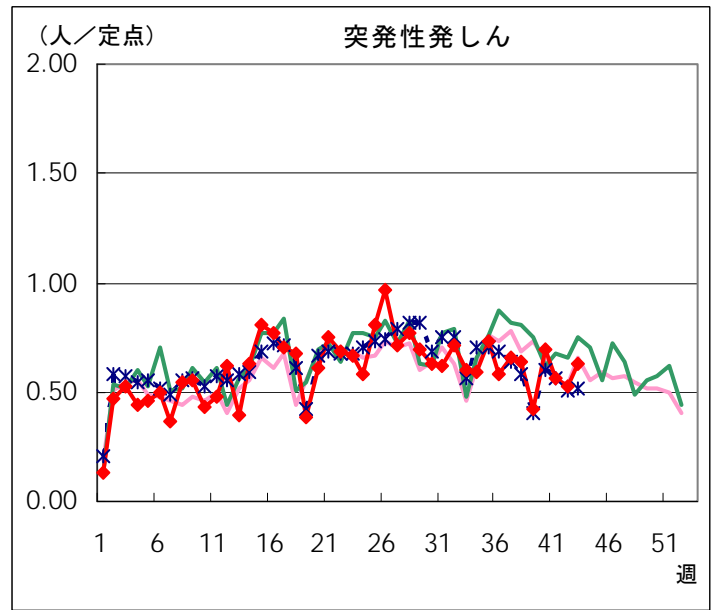
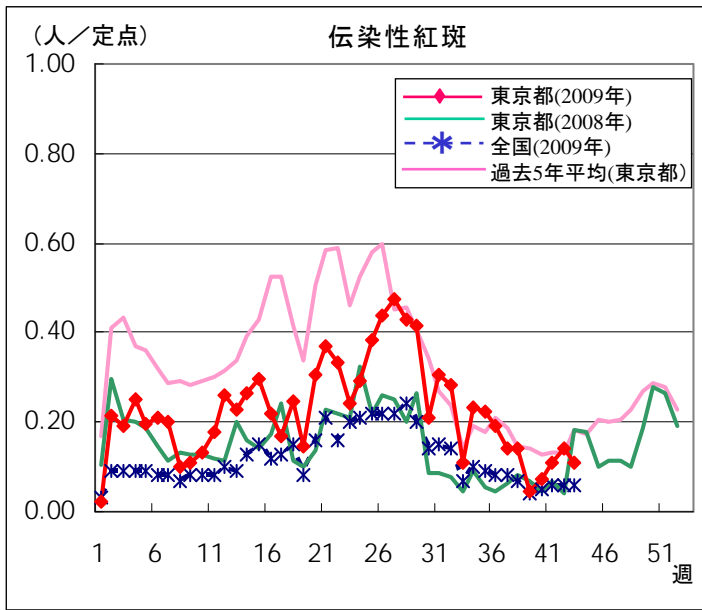
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田					0.67					
中央区				0.67				1.33		
みなと	1.17	0.83	0.17	3.83		0.50		1.17		
新宿区	0.17		0.33	1.33	0.33	0.33		0.33		
文京				0.67		0.67		0.67		
台東			1.33	4.00		0.33		0.67		2.33
墨田区		0.33	0.67	1.33		2.00		0.67		
江東区			1.00	4.00	0.75		0.25	1.50		
品川区	0.17		0.17	2.00		0.50		0.67		
目黒区				1.00		1.33	0.33	0.33		
大田区	0.22	0.22	0.22	5.33	0.56	0.44		0.67		0.22
世田谷			1.00	1.13	0.25	1.13		0.13		
渋谷区		0.25	0.50	0.50	0.50	0.25	0.25	1.25		
中野区			0.17	3.00	0.67	0.17				0.17
杉並			0.33	4.33			0.17	0.50		
池袋			0.20	1.20	0.20					
北区				0.75	0.25	0.50		1.25		0.25
荒川区			1.00	3.00	2.00	1.00		1.00		
板橋区				1.17	0.83			0.17		
練馬区				0.60	0.20	0.40	0.20	1.00		0.60
足立				2.00	0.60	0.60		0.80		
葛飾区			0.25	0.50	0.75	1.75	1.75	1.00	0.25	
江戸川			1.60	3.20	0.60	0.80	0.20	0.60		1.20
八王子市			8.50	4.50	2.25	1.00		1.75	0.25	0.50
西多摩		0.20	0.20	2.20	0.20	0.60		0.40		
南多摩			1.00	1.25	0.25			0.50		0.25
町田			5.25	5.25	3.00		0.75	1.25		1.50
多摩立川				2.17	0.17	0.17				
多摩府中			0.11	0.22	0.22	0.11		0.56		
多摩小平	0.17	0.17	1.83	2.67	0.83	1.33		0.50		
島しょ			1.00			2.00				
東京都	0.08	0.07	0.77	2.19	0.49	0.51	0.11	0.63	0.01	0.20

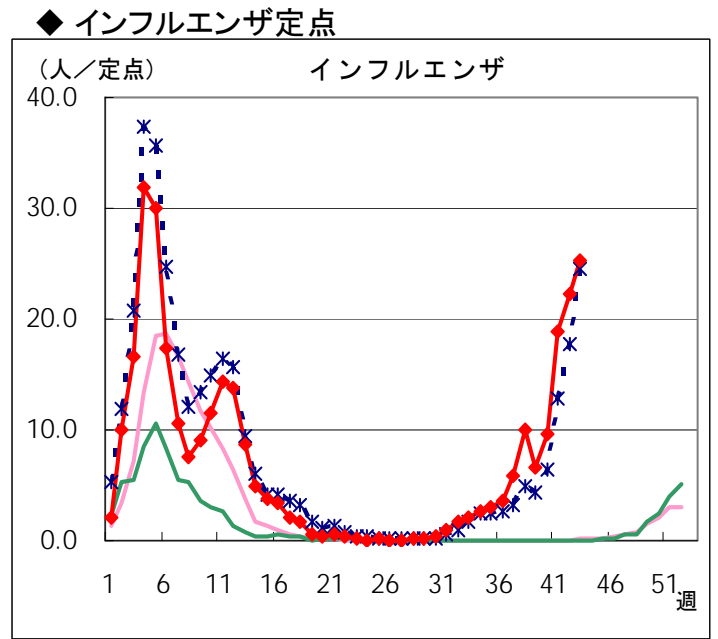
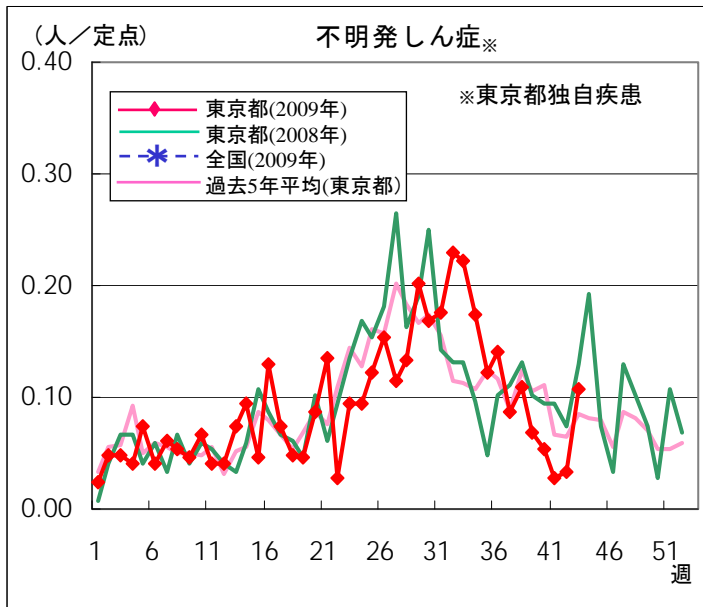
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				6.00		
中央区				10.25		
みなと	1.00		0.17	20.13		
新宿区	0.33	0.50		17.44		1.00
文京				23.80		
台東				21.20		
墨田区	0.67	0.33		13.50		
江東区	0.75	0.25		27.00		1.00
品川区				18.10		
目黒区				6.33		
大田区		0.22		21.81		
世田谷	0.13			30.13		0.50
渋谷区		0.25		13.00		
中野区	0.33			16.78		
杉並	0.17			23.83		1.00
池袋				21.00		
北区	0.50			22.38		1.00
荒川区		1.50		22.25		1.00
板橋区	0.17	0.17		11.33		
練馬区	0.60			25.33		1.00
足立	0.20			28.25	0.50	
葛飾区	3.50			32.33	1.00	
江戸川	0.40			30.17		
八王子市	2.00	0.50		48.50		1.50
西多摩	3.40		0.20	21.78		
南多摩	1.00			36.33		
町田	5.50	0.50		60.33		
多摩立川	0.50			23.46		
多摩府中	1.11			25.25		1.33
多摩小平	2.17			38.57		
島しょ				1.50		
東京都	0.79	0.11	0.01	25.24	0.05	0.44

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年43週現在

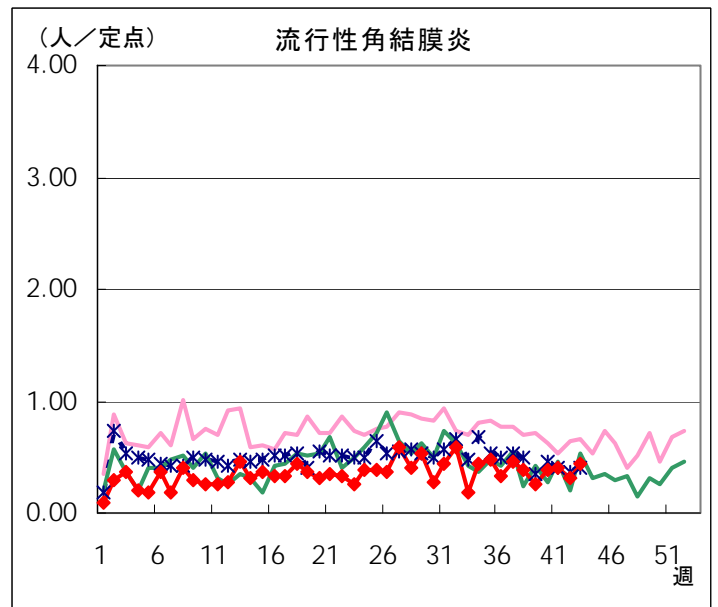
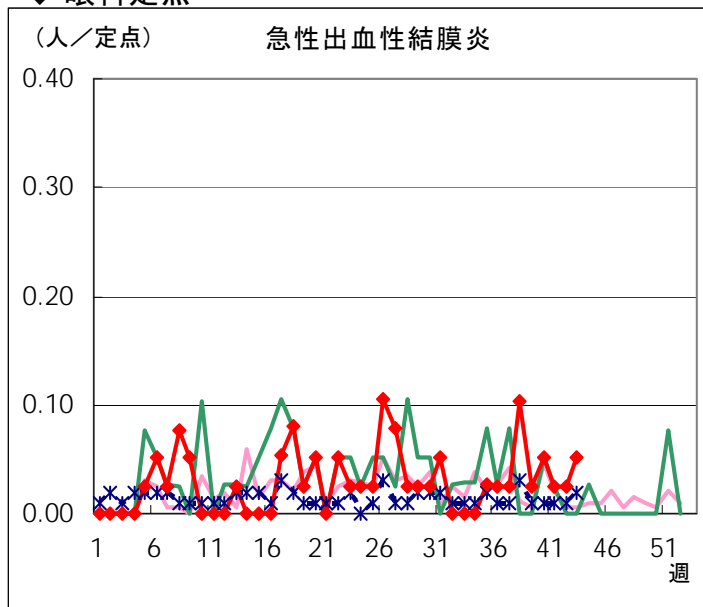
◆ 小児科定点



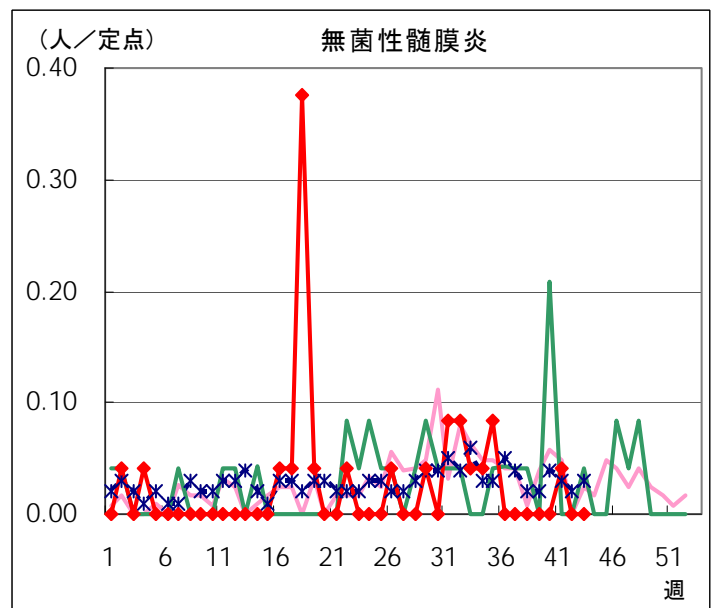
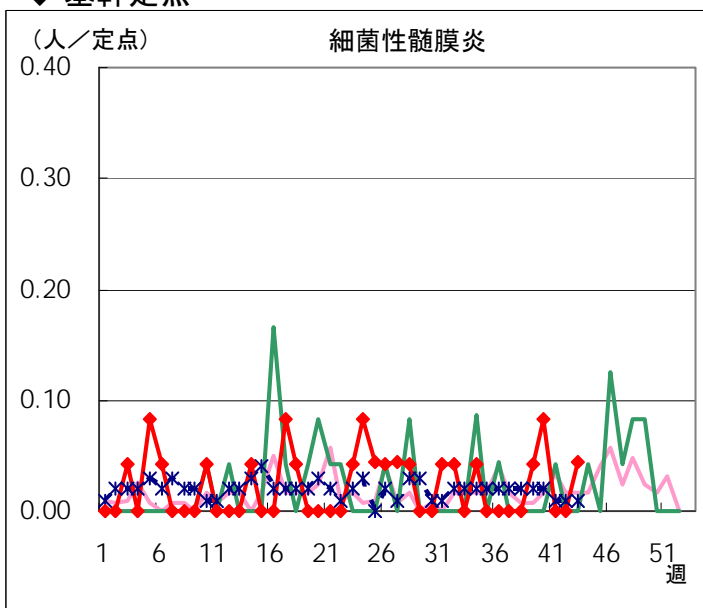


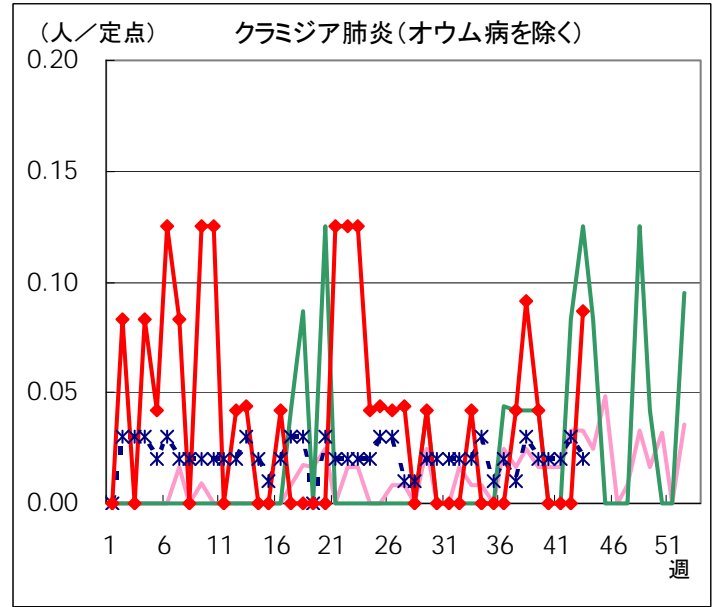
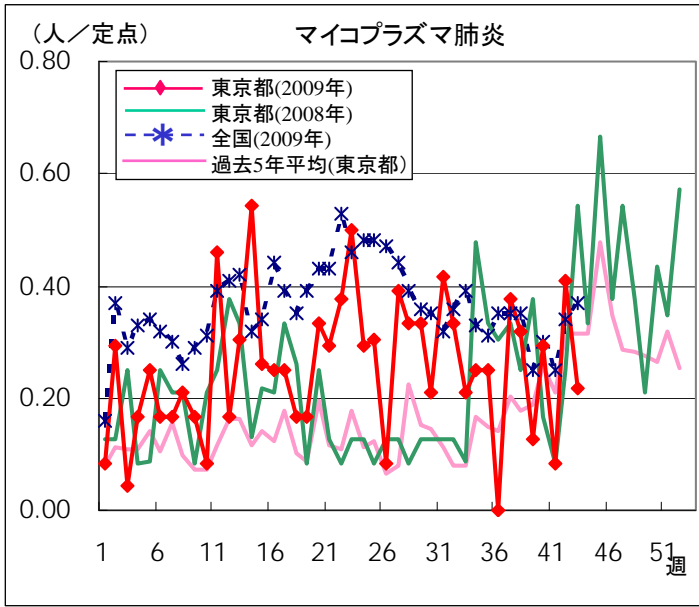


◆ 眼科定点

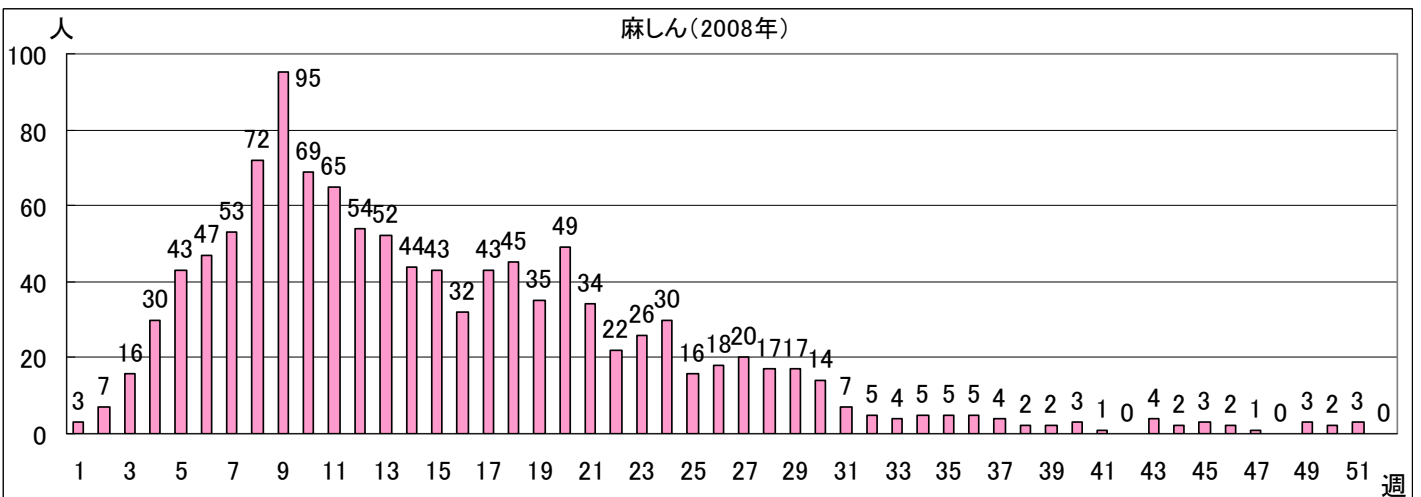
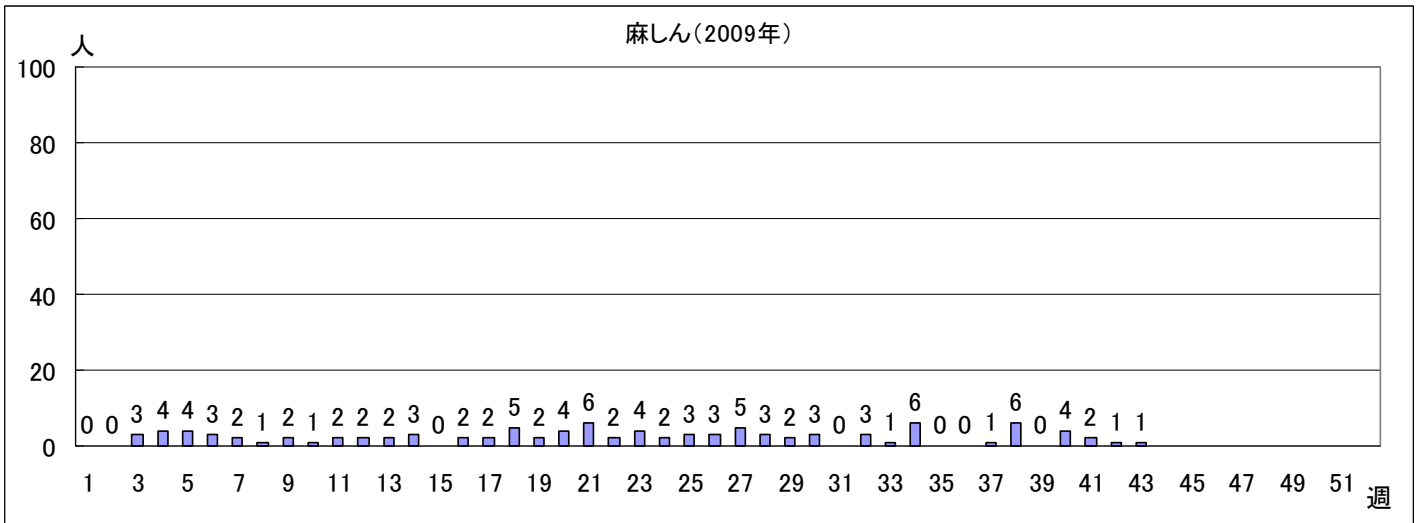


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年43週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	18	1	B型6歳児。
	11		
	62		
新宿区	25		高熱をきたす前に、1～2日軽い感冒症状の前駆症状がある。 熱発後第二病日に解熱する例がある。
	43		
	16		
台東	22		
	6		
江東区	25		
	9		
品川区	8		患者11名。
	21		
	5		
目黒区	11		
	14		
	7		
大田区	5		
	7		
	13		
	6		
	48		
世田谷区	25		
	5		
	5		
			患者20名。14歳、12歳の兄弟は、AとBが同時に(+)でした。
中野区	23		臨床症状や状況からインフルエンザと考えられるもの4人。 インフルエンザ患者の年齢層が下がって来た印象です。
	2		
	32	1	
	14	1	
	16		
	13	2	
	2		
	8		
	26		型不明7名。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
池袋	19		
	11		
	19		
北区	45		8名は臨床診断。
	13		患者40名。年齢層が広がってきました。パンデミックに近いのでしょうか。
	7		
西多摩		2	患者25名。
	3		患者4名。A型20代3名。
	73		
	2		
多摩立川	12		患者22名。
			患者38名。近隣の小中学校で学級閉鎖、学年閉鎖が始まっています。
	12		患者23名。
多摩小平	33		
	14	1	
	70		患者84名。
	69		
	19	1	
	24		
	21		
八王子市	36		不明51名。
	128		
	1		
	4		
	18		
	13	1	
	83		
	110		

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
9/28	不明発しん症	3	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型、7型	遺伝子
10/7	脳症	1	血清	ヒトヘルペスウイルス6型	
10/8	咽頭炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/8	咽頭炎	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/9	突発性発しん	2	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトヘルペスウイルス7型	
10/10	突発性発しん	記載無し	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型	
10/10	流行性耳下腺炎	3	咽頭拭い液	EBウイルス	
10/13	上気道炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス	
10/13	中耳炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
10/13	手足口病	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/13	風しん	1	咽頭拭い液	EBウイルス、エンテロウイルス	
10/14	RSウイルス感染症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス、アデノウイルス	
10/14	流行性耳下腺炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス ムンプスウイルス	
10/15	熱性けいれん	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/15	気管支炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
10/15	不明発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
10/15	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/15	手足口病、突発性発しん	記載無し	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/16	気管支喘息	2	咽頭拭い液	ライノウイルス	

◇定点医療機関から搬入された検体の遺伝子検査法による亜型

亜型検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)
42週	0	0	0	36
今シーズン累計**	1	0	0	228

* AH1pdm: 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/HINI)

**新シーズン(2009-2010シーズン)の開始は第36週(8月31日~9月6日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年							
		35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週
ウイルス	アデノウイルス	1	5	3		4	3	3	3
	ライノウイルス	2	3	8		5	2	3	3
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群			1					
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71			2					
	その他のエンテロウイルス	10	7			8	3	2	10
	単純ヘルペスウイルス	1	1						
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	3				3	1	3	6
	EBウイルス		1	3		4			2
	サイトメガロウイルス			2			1	2	
	ムンプスウイルス					1		3	1
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19					1			
	RSウイルス			1		6		1	
	ノロウイルス			2					
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1	1	1						
	インフルエンザウイルスAH3	2							
	インフルエンザウイルスB								
	新型インフルエンザウイルスAH1pdm	25	16	35	37	31	22	51	36
デングウイルス(抗体を含む)	1	2							
その他のウイルス									
細菌	カンピロバクター	2							
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌		2	3					
	その他の細菌							1	
その他の病原体						2			

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年35週～2009年42週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	291	28	58	26	32	4		4	3	7	3	13	6			4	109	
ウイルス	アデノウイルス	1	1	9	1			2		1						1	5	
	ライノウイルス	5	1	9			1			1		2					6	
	ポリオウイルス			1													1	
	コクサッキーウイルスA群	1																
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71			1					1									
	その他のエンテロウイルス	3	8	6	1	1	1		1	6		4	1			1	7	
	単純ヘルペスウイルス																	2
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		1									7	1					7
	EBウイルス								2			2	2				1	3
	サイトメガロウイルス		1		1							1					1	1
	ムンプスウイルス					3								2				
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1						
	RSウイルス			8														
	ノロウイルス																	2
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1	2																	
インフルエンザウイルスAH3	2																	
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	251		2															
デングウイルス(抗体を含む)																	3	
その他のウイルス																		
細菌	カンピロバクター				2													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		5															
その他の細菌			1															
その他の病原体			2															

<感染症豆知識>

おたふくかぜの合併症

おたふくかぜ(ムンプス、流行性耳下腺炎)は、パラミキソウイルス科のムンプスウイルスにより毎年約 20 万人が発症する。好発年齢は 4-5 歳で、疼痛性耳下腺腫脹が特徴の全身性ウイルス感染症である。蛋白分解酵素に感受性があり神経親和性のため、合併症は中枢神経系、腺組織、心筋、関節等の多臓器にわたる。小児で頻度が高い合併症は無菌性髄膜炎で 1～10%である。頭痛や頸部硬直を呈するが予後は良好である。一方脳炎の頻度は 0.02～0.3%、死亡率は 0.5～2.3%で神経学的後遺症を生じ重篤である。ムンプス難聴は 200～20000 人に一人と発生頻度に幅がある。これは蝸牛前庭神経障害による急性の高度感音性難聴で治癒困難である。約 80%が 1 側性で、小児に多いため発見が遅れる事がある。精巣炎や睾丸炎は思春期以降の男性患者の 14～35%に生ずる。紀元前 5 世紀にヒポクラテスが、既にムンプスを耳下腺と睾丸が腫れる病気と記述している。30～40%に精巣萎縮を来たすが不妊症は稀である。女性では約 7%に卵巣炎を生じ虫垂炎と似た腹痛を呈する。腭炎は数%に生じ強い吐き気や嘔吐腹痛を生ずるが 1 週間程で完治する。糖尿病との関係は不明である。心筋炎では心電図の変化が 3～15%に見られ、無症候性が多く予後は良いが死亡例もある。その他の合併症として関節炎、甲状腺炎、乳腺炎、糸球体腎炎、血小板減少、横断性脊髄炎等がある。ときに耳下腺腫脹のない例があり、ムンプスを念頭におき鑑別すべきである。特異的治療法はなくワクチンが唯一の効果的予防法である。現在わが国の接種率は 30%と低い。より安全な MMR の導入と定期接種化の検討の時期である。

(文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子)